



羽咋市復興個別計画

〔円井町地区〕

令和7年6月
円井町・羽咋市

目 次

1	復興個別計画の概要	1
	（1）復興個別計画とは	1
	（2）復興個別計画の構成	1
2	地区の現状と課題	2
	（1）地区の現状	2
	（2）地区の被災状況及び課題	4
3	復興に向けた取組事項	5
	（1）地区の防災力向上	5
	（2）ハード面の機能強化等	6
4	各種インフラ復旧に向けた取組等	7
5	資料編	8
	（1）復興個別計画策定手順	8
	（2）ワークショップ実施概要	9

1 復興個別計画の概要

(1) 復興個別計画とは

令和6年1月1日午後4時10分に発生した令和6年能登半島地震では、本市においても震度5強（※推定震度6弱）を観測し、市内各地で液状化や家屋の倒壊など甚大な被害を受け、未曾有の大災害となりました。

これを受け本市では、被災者の住まいとくらしの再建、被災地域の復旧・復興、地域経済の再建など、住民が希望と夢をもって安心して住み続けることができるよう、令和6年8月に“羽咋市復興計画”を策定し、各種取組を進めています。

しかしながら、大規模な液状化が発生し、インフラ（道路、上下水道等）に甚大な被害を受けた地区等においては、復旧までに長い期間を要し、「いつになったら元の生活に戻るのか」「このまま住み続けることができるのか」など、地区の将来の姿が見えず、依然として多くの住民の方が不安を抱えながら生活しています。

このため、地区の実情に応じた、将来にわたってお住まいの地区に住み続けるための将来展望や、この実現に向けた地区の防災力向上等の優先すべき取組、インフラの復旧スケジュール等を明確にした“復興個別計画”を策定し、住民・地区・行政で共有することで、地区の復興に向けた取組を進めるものです。

(2) 復興個別計画の構成

復興個別計画は、大きく「復興」と「復旧」に分け、取組事項等を整理します。

「復興」に関する内容は、令和6年能登半島地震を受けた地区の問題点・課題、これを踏まえた地区の将来像、この実現に向けた取組等について、地区住民が主体のワークショップで検討・協議した内容に基づき、整理します。なお、「復興」の取組については、住民・地区・行政が協働で取り組む必要があるため、下図に示す自助・共助・公助に分け整理します。

「復旧」に関する内容は、行政が実施する地区内の各種インフラ（道路・上下水道等）復旧の取組内容・位置及び実施スケジュールを整理します。

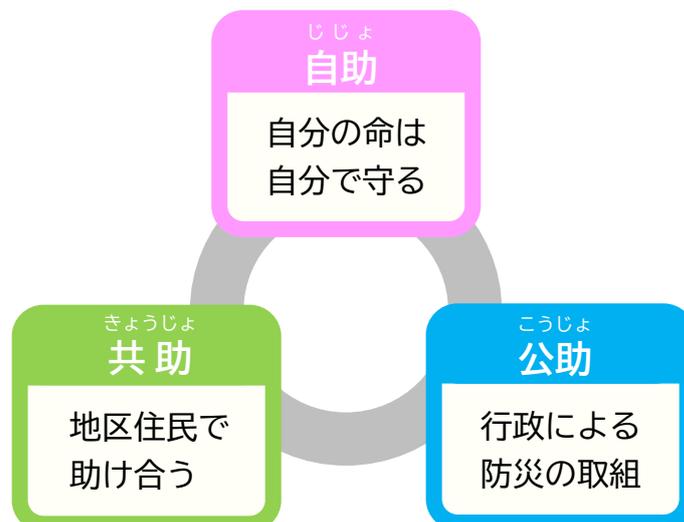


図 自助・共助・公助のイメージ図

2 地区の現状と課題

(1) 地区の現状

【概況】

円井町地区は、中心市街地の北東部、邑知潟に位置し、地区の大半は、水田を中心とした農地です。

地区南部を東西方向に走る（一）若部千里浜インター線が幹線道路となっています。

地区内には、円井町会館を有しています。また、地区内に避難場所及び避難所はありませんが、近隣の避難所として「瑞穂小学校・体育館」「富永公民館」があります。



円井町会館



【人口及び世帯数】

円井町地区の総人口は 165 人、世帯数は 67 世帯となっています。

地区の老年人口割合は 49.7%となっており、市全域の老年人口割合（41.0%）を上回っています。また、特に 15～39 歳の生産年齢人口割合（14.5%）が、市全域の割合（19.0%）よりも低くなっています。

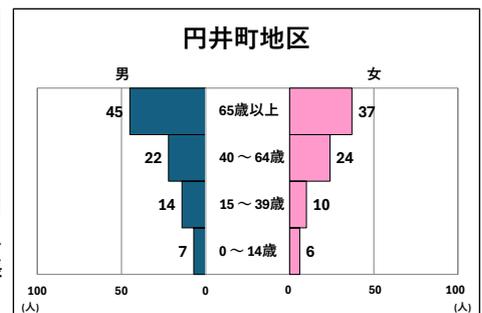
今後、さらなる高齢化の進行により、地区のコミュニティ活動の維持等が困難になることが推測されます。

表 円井町地区の人口（年齢4区分別割合）

	年少人口	生産年齢人口		老年人口
	0～14 歳	15～39 歳	40～64 歳	65 歳以上
円井町地区	7.9%	14.5%	27.9%	49.7%
市全域	8.8%	19.0%	31.2%	41.0%

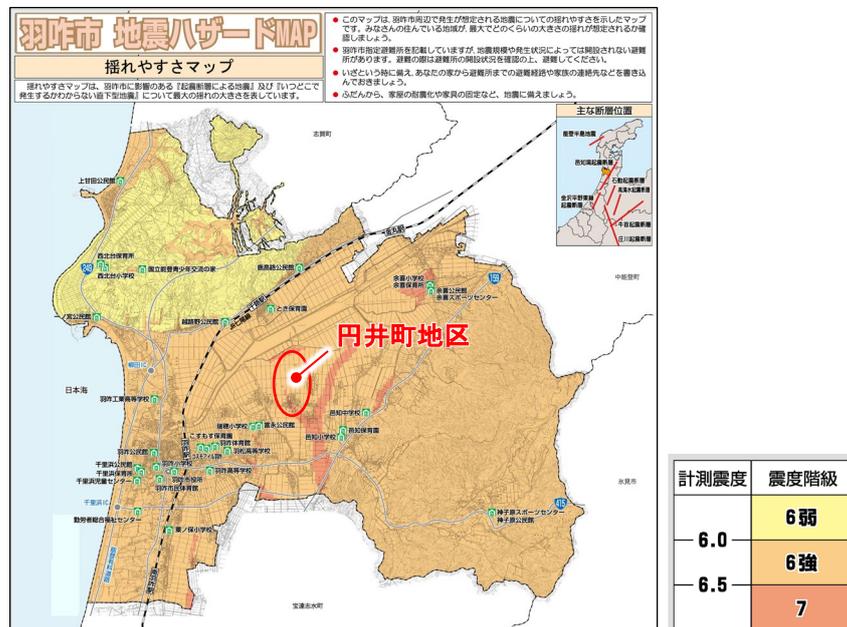
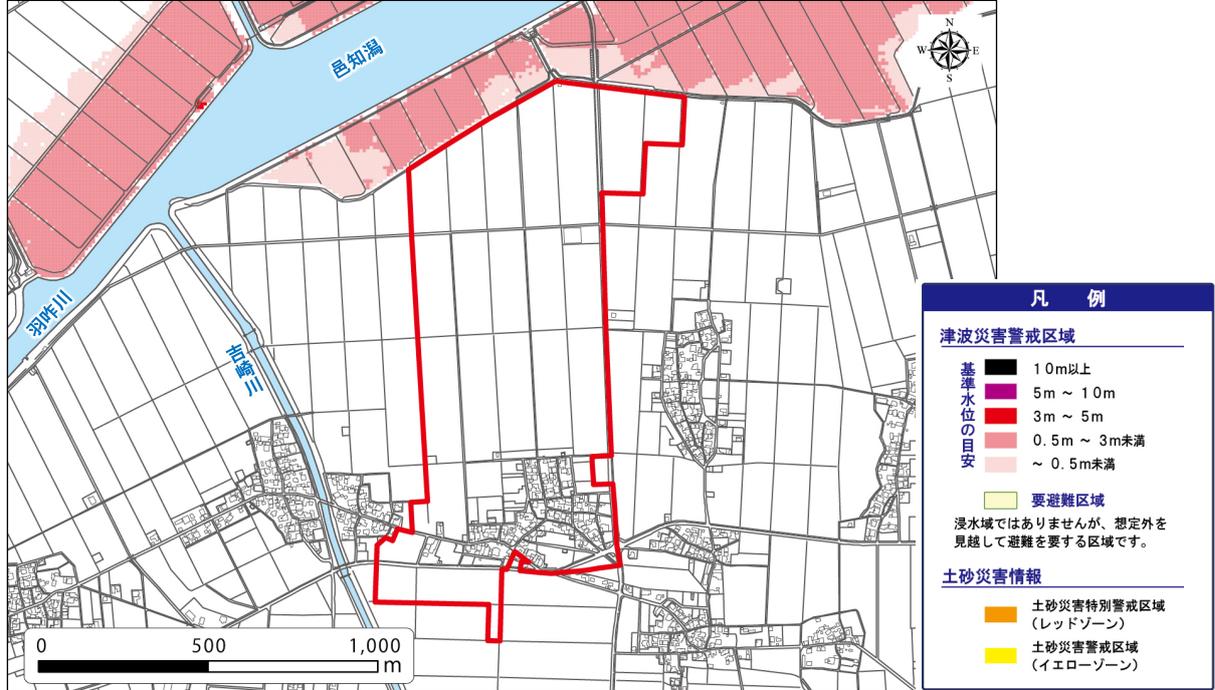
※令和 6 年 4 月 1 日時点

資料：住民基本台帳



【各種ハザードの指定状況】

円井町地区は、津波災害警戒区域及び土砂災害警戒区域の指定はありませんが、地震による地区の最大震度は一部で震度7、大部分が6強と想定されています。

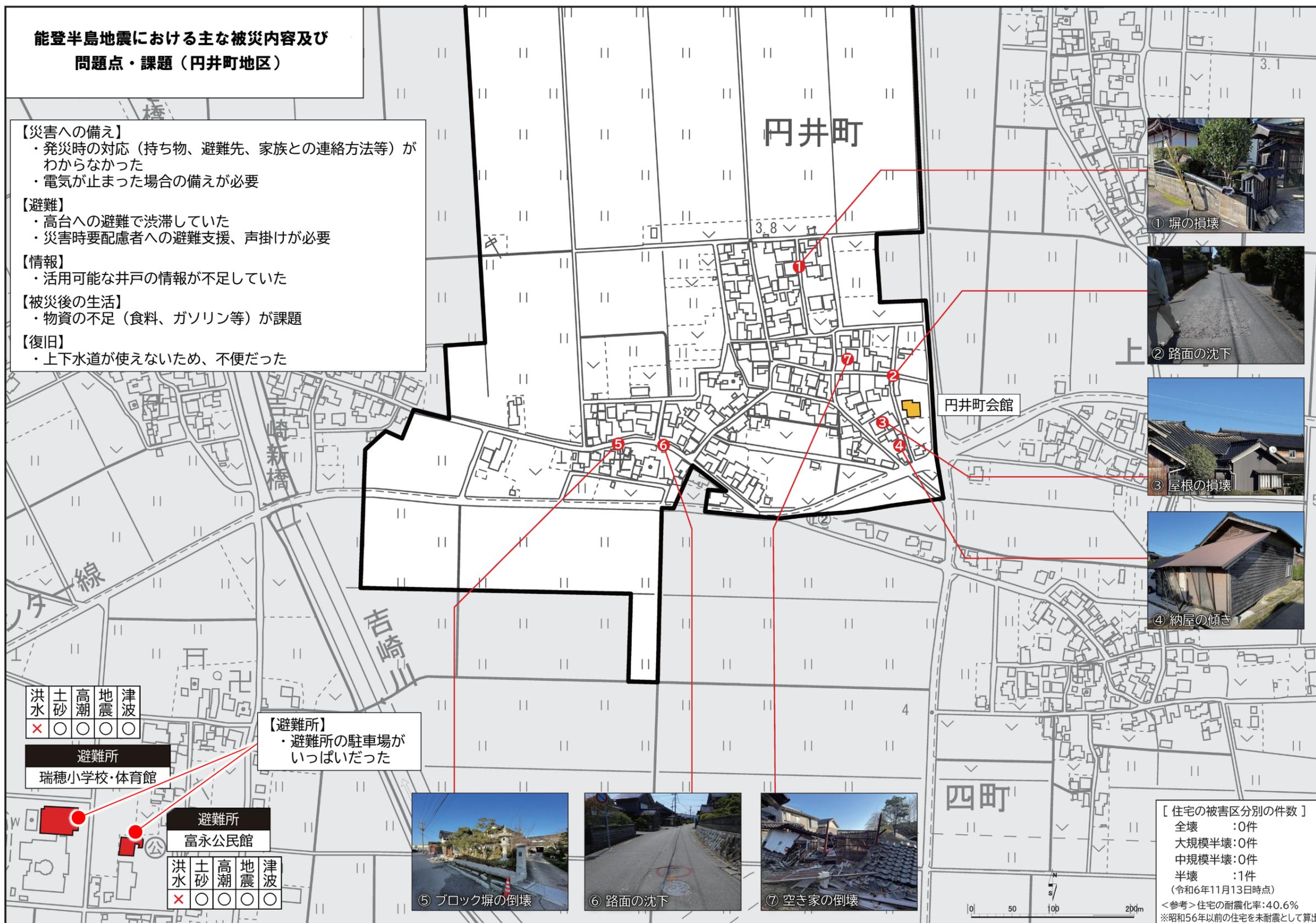


【耐震化率】

昭和56年以前の建物を未耐震として算出した場合（改修済みを除く）の円井町地区内における建物の耐震化率は、40.6%となっています。これは、全国平均の耐震化率（87.0%）を大きく下回っています。上記規模の地震が発生した場合、令和6年能登半島地震（震度5強）よりも甚大な被害となる可能性があります。

(2) 地区の被災状況及び課題

令和7年1月に実施した「第1回 復興個別計画の作成に向けたワークショップ」でのご意見を踏まえた地区の被災状況及び問題点・課題は以下のとおりです。



3 復興に向けた取組事項

<地区の将来像>

目指せ！ みんなが一緒に集い、声かけ助け合う 円井町

住民一人一人が助け合いと思いやりの心、役割意識を持ちながら、高齢者などを含めて誰も孤立させない災害に強いまちを目指します。

前頁の被災状況及び問題点・課題を踏まえ、“取組が必要な事項”“取組内容”“具体的な活動等”を自助・共助・公助ごとに設定します。

“取組内容”については、第2回ワークショップの検討結果に基づき、“◎：最重要取組事項”、“○：重要取組事項”として整理します。

(1) 地区の防災力向上

【自助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
迅速・的確な避難行動	◎発災時の初動がスムーズに行えるように、避難に関する事前準備	◇避難時の持ち物（薬など）の事前準備
//	◎発災時の初動がスムーズに行えるように、家族内の事前確認	◇家庭内での避難場所・連絡先などの話し合い
災害時要支援者等の安否確認	○一人暮らしの方などが孤立しないように、近隣住民間の連携強化	◇個人として一人ひとりの積極的な声掛け
災害時の生活維持	○災害時に水を確保するため、備蓄品の事前準備	◇ペットボトル（水1日分）やポリタンクによる備蓄

【共助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
災害時の生活支援	◎災害時の電力・情報を得るための事前準備	◇町会による発電装置（ソーラーパネルなど）の事前準備 ◇電池でも情報入手が可能なラジオの事前準備
危険箇所・避難所の把握・共有	◎災害リスクを把握・回避するため、ハザードマップの事前確認	◇ハザードマップによる避難所等の周知・事前確認
迅速・的確な避難行動	○災害時に自分で避難できない方の避難支援	◇災害時要配慮者のリスト化・避難に関する事前協議
避難所の環境改善	○災害時に必要なものを確保するため、避難所での備蓄品の事前準備	◇円井町会館に食料、ガソリン、簡易トイレなどの備蓄

【共助（つづき）】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
避難所の環境改善	○災害時に水を確保するため、避難所での設備の事前準備	◇円井町会館に浄化槽・雨水タンク・井戸・ろ過装置の設置（トイレ・飲水への活用）

【公助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
迅速・的確な情報の受発信	◎デジタル・アナログによる正確な情報発信	◇LINE・結ネット※等を活用した情報発信や、その他公的機関のSNSの活用促進

※自治会・町内会をはじめとする地域組織や各種団体の日々の活動・運営を支援するアプリであり、普段は回覧情報や連絡事項の提供ツールとして、災害時には安否確認ツールとして活用可能

（２）ハード面の機能強化等

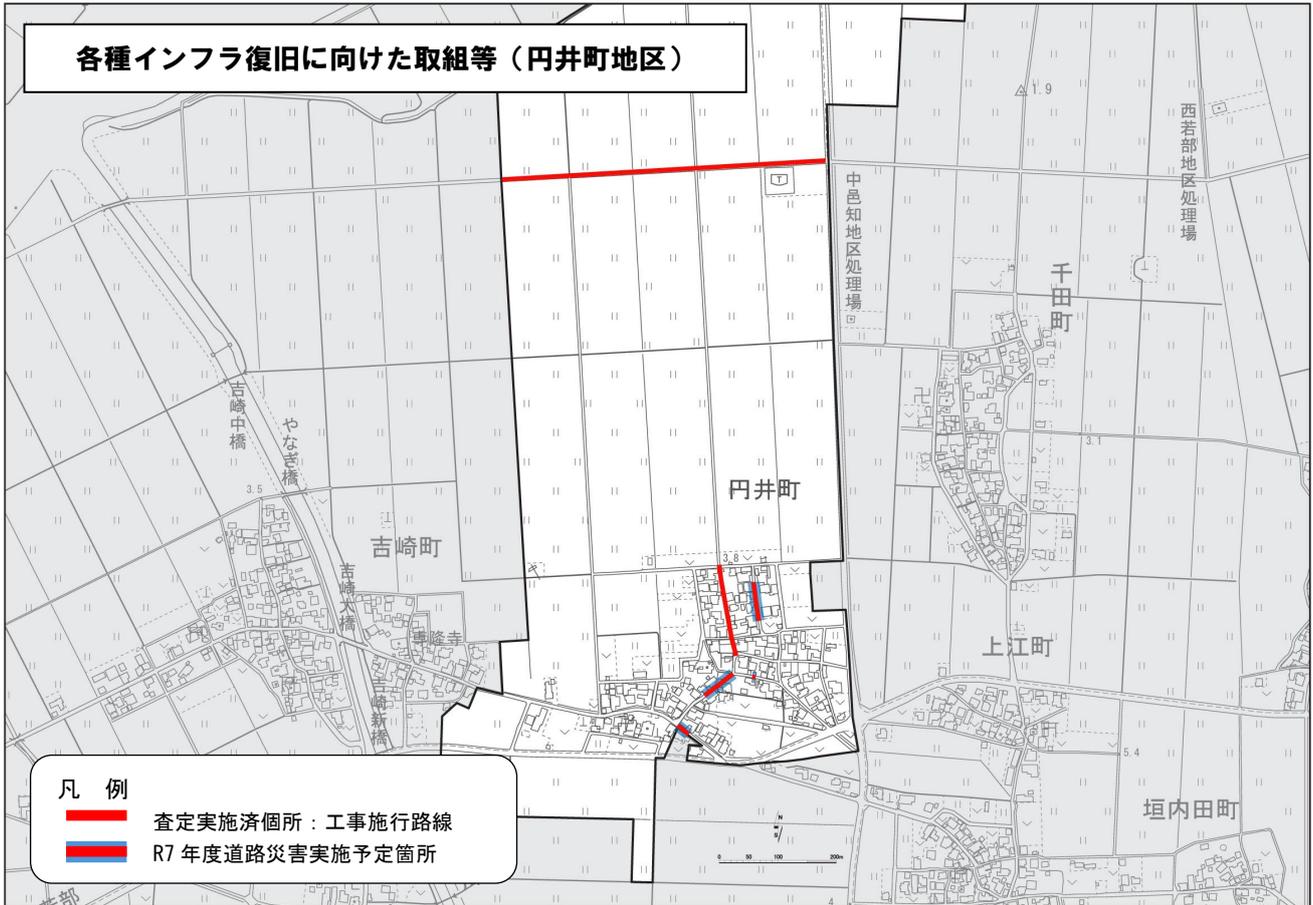
【公助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
災害時の生活維持	◎災害時における水の確保	◇井戸の整備

4 各種インフラ復旧に向けた取組等

行政が実施する地区内の各種インフラ（道路・上下水道等）復旧に向けた取組内容・位置及び実施スケジュールは以下のとおりです。

なお、取組内容等については、状況に応じて随時見直し・修正していきます。

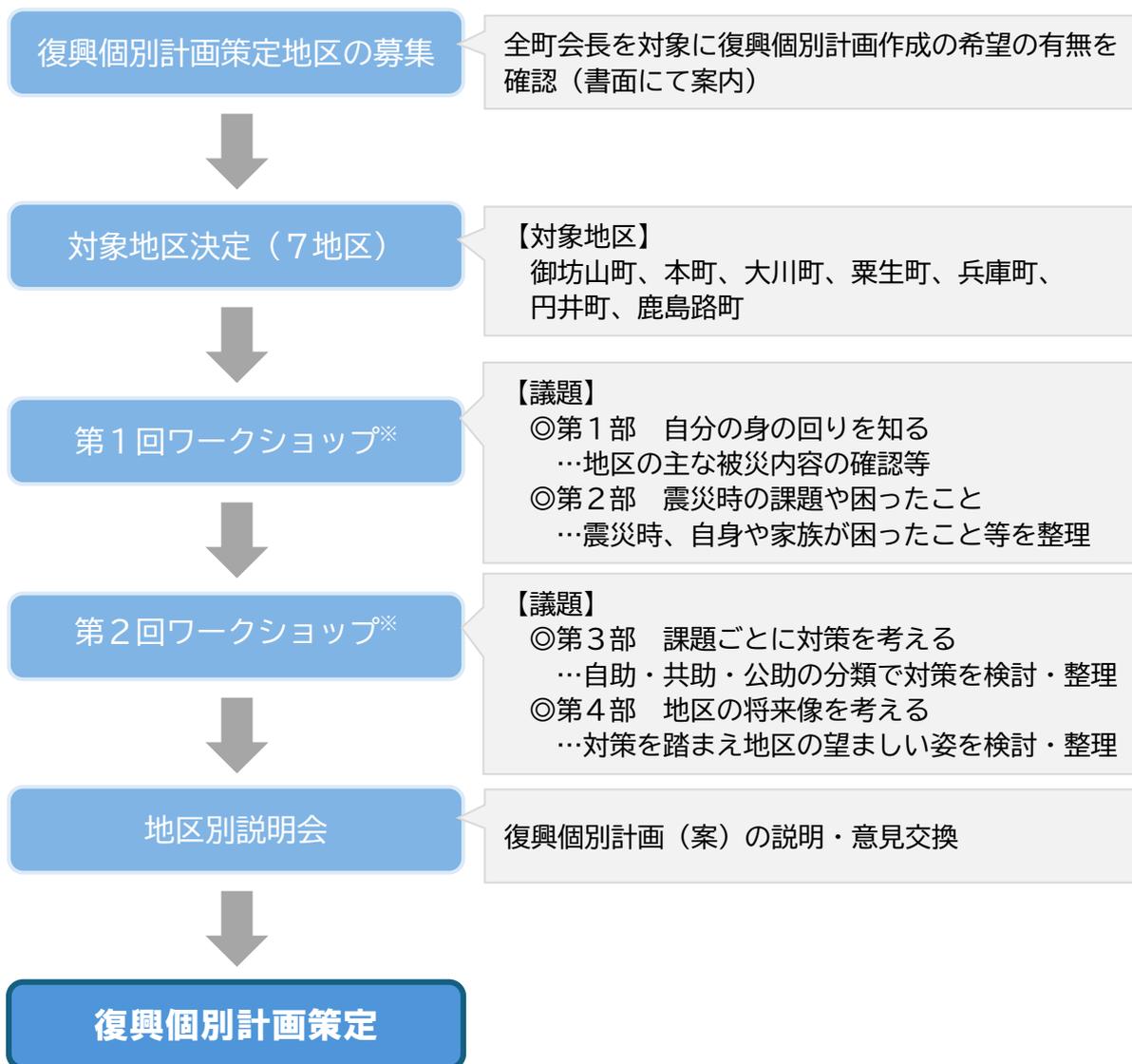


取組内容	R5年度 (R6.1~)	R6年度	R7年度	R8年度~
① 公共災道路 公共災害復旧事業 (道路災 1件)	被災状況調査	国の災害査定 1件 (12月末済)		復旧完了目標
	応急復旧工事 (主にアスファルト舗装)		測量・実施 設計	
	災害査定準備		本復旧工事 (1件)	
② 市単災道路 市単災害復旧事業 (道路災 4件)	被災状況調査 (下水道事業との調整)	測量・実施 設計		復旧完了目標
	応急復旧工事 (主にアスファルト舗装)		本復旧工事 (3件)	

5 資料編

(1) 復興個別計画策定手順

復興個別計画の策定は、以下の手順で実施しました。



※ワークショップの概要・進め方

- 1グループあたり5名程度を基本に2～3グループで実施
- 各グループには市職員も配置
- テーマに応じて個人の意見等を付箋に書き出し、グループ内で意見交換をしながら共有・とりまとめ
- 各回、グループでのとりまとめ結果を代表者より発表し、意見を共有

(2) ワークショップ実施概要

■第1回

【開催日】令和7年1月31日（金） 18:00~19:30

【場所】円井町会館

【参加者】町会長及び地区住民 計16人

【議題】第1部（現状把握）自分の身の回りを知る
第2部（現状把握）震災時の課題や困ったこと



ワークショップの様子

【主な意見（震災時の課題や困ったこと）】

項目	課題・困ったこと	項目	課題・困ったこと
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> 避難時の持ち物、備蓄品 避難先がわからない 家族との連絡体制を確認しておけばよかった 電気が止まった場合の対応 漏電、火災が不安 冬、雪問題 志賀原発で発災時の対応 	情報	<ul style="list-style-type: none"> 避難所や給水、安否情報等の情報不足 補助金や保険の情報がわからない SNS デマ拡散 活用可能な井戸の情報が不足
		被災後の生活	<ul style="list-style-type: none"> 物資の不足(食料、ガソリン等) 余震、二次被害が心配 トラウマ等へのケア
避難	<ul style="list-style-type: none"> 高台への避難で渋滞していた 災害時要配慮者への避難支援 	ハード整備 ・復旧	<ul style="list-style-type: none"> 上下水道が使えない 家屋の倒壊、修繕 ブロック塀、灯籠の倒壊 道路の被害（破損、陥没等） 1年後の地盤沈下 邑知瀧、田んぼダムの決壊
避難所	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の駐車場がいっぱいだった 		

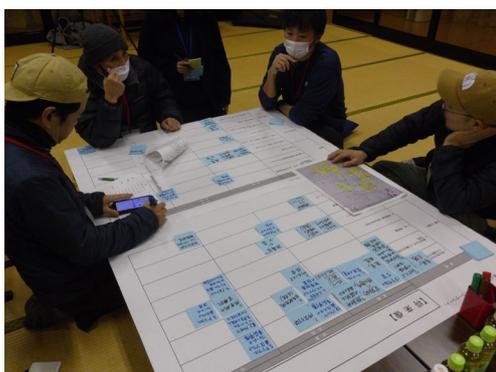
■第2回

【開催日】令和7年2月21日（金） 18:00~19:45

【場所】円井町会館

【参加者】町会長及び地区住民 計14人

【議題】第3部（対応協議）課題ごとに対策を考える
第4部（将来展望）地区の将来像を考える



ワークショップの様子

【地区の将来像案】

フレーズ：目指せ！災害に強い円井町！！
 キーワード：助け合い／孤立させない／集う／声かけ／高齢化／想いやる／
 アナログとデジタルの両刀使い／皆で一緒に確認！／
 町民が役割意識を持つ

【主な対策】

自助	最重要対策	防災リュックの準備／避難先、家族との連絡方法等の事前確認
	重要対策	簡易トイレの準備／飲料水等の準備／ハザードマップの確認／被災後、孤立感を感じないような声かけ
共助	最重要対策	ハザードマップの周知／自家発電機、ラジオを会館に準備
	重要対策	簡易トイレを会館に備蓄／災害時要配慮者のリスト化／浄化装置、井戸の整備
公助	最重要対策	井戸の整備／食料、ガソリン等の会館への備蓄／SNS等を活用した情報発信
	重要対策	避難経路や災害時要配慮者への避難支援等の調整／羽咋道路のかさ上げ